

堺市文化芸術審議会 委員評価中間まとめ

【基本的施策⑥健康福祉プラザ事業】

(1) 基本的施策

基本的施策	⑥多様な分野との連携
	文化芸術が堺市の子育て、福祉等様々な分野に影響を及ぼすものであることに鑑み、文化芸術を活用した施策の推進を図ります。
評価指標	連携事業数（推進計画目標値：20 事業）

(2) 具体的取組

評価対象とする 具体的取組	健康福祉プラザ事業		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術教室 文化芸術活動に興味や関心があり、障害のある方を対象に個性や感性を作品に表現し、オリジナリティのある作品作りをすることを目的として文化芸術教室を開催する。 また、教室の参加者をはじめ、文化芸術活動に興味や関心のある障害のある方や関係者に対して、作品展の開催情報等を収集し、出展支援を行う。 プラザアートフェスティバル 堺市内で文化芸術活動に取り組んでいる障害のある方を対象に、芸術作品を募集し、出展された全作品をプラザアートフェスティバルの中で展示する。 また、障害のある方の文化芸術活動に関わる有識者や支援者等による講演・シンポジウムや、障害のある方の文化芸術を振興する団体等の協力を得て、芸術性の高い作品等の展示会も併せて開催する。 障害者アートセミナー 市内の障害者施設や特別支援学校等で、障害のある方の文化芸術活動に関わる支援者を対象として、障害者と一緒になってモノづくり等の事例紹介や地域における障害者アート等に対する理解を深めるセミナーを開催する。 		
具体的取組の達成度 を測る評価指標	具体的取組指標	目標値	実績値
		H30	H28 H29
	利用者数	113,000 人	110,612 人 113,674 人
①「文化芸術振興事業」及び「自主事業」の 合計実施回数	①43 回 ②2,400 人	①54 回 ②2,027 人	①58 回 ②2,195 人
②合計参加者数			

<平成30年度実績評価>

(3) 報告内容

【「具体的取組に対する評価」に関する意見（指標の妥当性、取組の有効性等について）】

- 指標の妥当性について
 - 具体的取組の達成度を測るには、利用者数等の現在の指標だけでは不十分であり、参加者や協力者等の多様性や広がり把握できるサブ指標・独自指標が必要である。（弘本委員）
- 取組の有効性について
 - 自身も障害者である担当者のプラス思考且つ無理をし過ぎない方針により、事業が巧みに運営されている。（河内委員）
 - 様々な表現により、コミュニケーションの壁を越え、アイデンティティや自尊感情を育む価値、他者を認めることの意義を実感できる事業である。障害の有無や世代や分野を越えて幅広い交流が進む事業の展開が望まれる。（弘本委員）
 - 担当者は事業が健康福祉プラザから外に向けて広げる試みを模索しており、障害者と健常者の交流が更に行われるよう前向きに考えている。（安井委員）
 - 企画を行っている担当者の情熱と実行力に負うところが大きく、カリスマ性あるプロデューサーがいるのは素晴らしいことだが、担当者が代わった場合、当イベントを継続できるのか心配にもなった。（亀岡委員）
 - より広く興味を持ってもらうために、広報の仕方を工夫すれば、より高い目標を達成できると思われる。（亀岡委員、安井委員）
 - 健康福祉プラザの交通の便が悪いので、せめてイベント期間中だけでも、最寄り駅からのバスがほしい。（亀岡委員、河内委員、安井委員）

【「全体評価」に関する意見（評価指標の妥当性、新しい具体的取組の必要性、各具体的取組の関連性等について）】

- 評価指標の妥当性について
 -
- 新しい具体的取組の必要性について
 -
- 各具体的取組の関連性について
 - 事業を更に進化させるには、目の前の問題を乗り越えるだけでなく、今まで繋がっていなかった資源を掛け合わせ、新たな相乗効果を生み出していく必要がある。（河内委員）

【その他所感】

- 会場全体の雰囲気明るく、また来てみたい気にさせられた。（河内委員）
- 担当者のチャレンジな生き方・考え方を聞き、2020年東京オリンピック・パラリンピックやその後も視野に、スポーツと文化芸術の掛け橋となる表現者や表現活動の意義や可能性を、更に社会の資源として活かしていく必要性を感じた。（弘本委員）